

地震工学会
津波などの突発大災害からの避難の課題と対策に関する研究委員会
第2回研究委員会 議事録

1. 日 時：2012年10月16日（水）14：00～18：00
2. 場 所：奥村組 東京本社 会議室
3. 出席者：荒木、久保、後藤、小山、佐藤、末松、仲村、久田、堀、真船、三上、村上、柳原、山田、山本、ユン
4. 資 料：
 - 資料 2-1 議事次第
 - 資料 2-2 第1回議事録
 - 資料 2-3 委員会名簿（2012.10.16）
 - 資料 2-4-1 シミュレーション普及小委員会 活動計画書
 - 資料 2-4-2 避難シミュレーション Validation(適用性)用サイトの候補 南浜町・門脇町の基本データ
 - 資料 2-5 都市避難部会議事録(案)
 - 資料 2-6 津波避難実態調査資料収集分析部会 研究方針について
 - 資料 2-7 国際交流部会 WG 国際交流活動案
 - 資料 2-8 内規
 - 資料 2-9 2012年地震工学会年次大会 プログラム
5. 議事内容：
 - 5.1 議事録確認（山本幹事長）
 - ・ 第1回の議事録確認を行なった。
 - 5.2 自己紹介
 - ・ 初参加の委員(荒木委員、小山委員、照本委員、山田委員)から、経歴、最近の研究、関心事等について自己紹介があった。
 - 5.3 今後のスケジュールについて
 - ・ 後藤委員長から、1年半後にシンポジウムを開催する必要があり、それまでに各研究部会で成果を出せるようにがんばってもらいたい、との発言があった。
 - 5.4 各研究部会の研究計画
 - (1) シミュレーション普及
 - ・ 末松委員から活動計画の説明があり、後藤委員長から Validation 用のサイトについて補足説明があった。
それ等に関する質疑は以下のとおり。
 - ① 昼夜の区別は可能か？
 - 再現することに意味はないのではないか
 - ユーザにとって意味のあるものにすべきと考える

② 住民教育の効果を考える方がいいのでは？

→ この地域の人々は日和山に逃げることは知っており、津波が来るか半信半疑で逃げているので、その影響がある。

③ 避難の動機（情報をどう入手したのか、それでどう判断したのか）を反映させるか？

→ ユーザが避難場所の配置の効果を知るためには、避難の動機は取り扱わない方が良い。

→ ある条件下であっても、渋滞の場所がわかれば、その地域で役立つ。

→ 再現することに意味はなく、Validation が試金石。

(2) 都市避難問題

- ・ 久田委員から活動計画の説明があった。

それに関する質疑は以下のとおり。

① アウトプットは？

→ 報告書で行う。

② シミュレーションを行うのか？

→ まとめることが第一。

③ 関西はどうするか。

→ 大阪市立大学の生田先生にお願いしてみる。

(3) 津波避難実態調査

- ・ 佐藤幹事から活動計画の説明があった。

それに関する質疑は以下のとおり。

① 国交省の調査の生データを入手できないのか？

→ 国の費用で実施されているが、公開は自治体に任されているようだ。

② 東日本大震災津波避難合同調査団のデータは？

→ HP で公開予定である。

(4) 国際交流

- ・ 村上委員から活動計画の説明があった。

5.5 特別講演

- ・ 甲斐委員の特別公演があった。
- ・ 高知県での津波被害予測および津波避難に関する取り組みが紹介された。
- ・ 「リスクを把握した行動(居住)に反対はできない」。

5.6 内規の確認

- ・ 後藤委員長から内規の確認があった。

5.7 次回の研究委員会

- ・ 次回の研究委員会までに、各研究部会で詳細な研究計画を立案していただく。
- ・ 日程については、12月を目途に日程を調整する。

5.8 Google ハングアウト

- ・ 遠隔地から参加できるように、Google ハングアウトのテストを実施した。

以上